

# 平成25年度第2回瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会

日時 平成25年8月19日(月)

午後1時30分～

場所 高松市役所11階114会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 事

- (1) 瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について
- (2) 共生ビジョンの記載内容(地域資源)の見直しについて
- (3) 共生ビジョンに掲げる取組の進行管理方法について
- (4) その他

### 3 閉 会



委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>・「公共交通機関利用促進」に関わるより詳細な内容の紹介。</p> <p>・「マネジメント能力の強化」に関わる個別具体の取組概要をお聞かせください。</p>	<p>交通政策課</p> <p>政策課 人事課</p>		<p>・現在、本年9月定例会議会での「高松市公共交通利用促進条例」の制定を目指しており、この条例の制定を契機として、ことごとく新駅の設置やバス路線の再編を始め、交通弱者の移動手段を確保するコミュニティバスの充実など、公共交通利用促進に向けた施策・事業の推進に努めることとしている。</p> <p>・【政策課】 (現状) 大学等との連携は、調査研究等について、大学等と具体的な実施内容を調整の上、共同研究として実施している。 (見通し) また、大学側においても、自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進めることが求められており、全国的に自治体との連携が広がっている。そこで、高松市としては、新たに、圏域内に所在する徳島文理大学との協定締結について、検討している。</p> <p>(参考)《高松市・香川大学(H24)》 「瀬戸・高松広域定住自立圏における団塊世代の人材活用策の調査研究」</p> <p>【人事課】 業務改善能力や実践的政策形成能力を高めるための研修を始め、行政環境の変化に対応できる幅広い視野を養うための教養講演会等を連携市町の合同で実施し、職員の能力・資質の向上を図った。</p>

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)																											
				<p>【参加人数】</p> <table border="1" data-bbox="239 145 869 1176"> <thead> <tr> <th rowspan="2">研修名</th> <th colspan="3">参加人数</th> </tr> <tr> <th>H22年度</th> <th>H23年度</th> <th>H24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>業務改善能力向上研修</td> <td>—</td> <td>高松市23人 連携4町4人</td> <td>高松市19人 連携6市町6人</td> </tr> <tr> <td>政策形成能力向上研修</td> <td>高松市23人 連携5町5人</td> <td>高松市25人 連携5町5人</td> <td>高松市17人 連携4市町4人</td> </tr> <tr> <td>OJT研修</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>高松市17人 連携6市町6人</td> </tr> <tr> <td>政策評価能力向上研修</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>高松市22人 連携5町5人</td> </tr> <tr> <td>教養講演会</td> <td>高松市100人 連携5町16人</td> <td>高松市100人 連携4町11人</td> <td>高松市95人 連携6市町17人</td> </tr> </tbody> </table>	研修名	参加人数			H22年度	H23年度	H24年度	業務改善能力向上研修	—	高松市23人 連携4町4人	高松市19人 連携6市町6人	政策形成能力向上研修	高松市23人 連携5町5人	高松市25人 連携5町5人	高松市17人 連携4市町4人	OJT研修	—	—	高松市17人 連携6市町6人	政策評価能力向上研修	—	—	高松市22人 連携5町5人	教養講演会	高松市100人 連携5町16人	高松市100人 連携4町11人	高松市95人 連携6市町17人
研修名	参加人数																														
	H22年度	H23年度	H24年度																												
業務改善能力向上研修	—	高松市23人 連携4町4人	高松市19人 連携6市町6人																												
政策形成能力向上研修	高松市23人 連携5町5人	高松市25人 連携5町5人	高松市17人 連携4市町4人																												
OJT研修	—	—	高松市17人 連携6市町6人																												
政策評価能力向上研修	—	—	高松市22人 連携5町5人																												
教養講演会	高松市100人 連携5町16人	高松市100人 連携4町11人	高松市95人 連携6市町17人																												
	<p>・各種の事業が「瀬戸・高松広域定住自立圏」としての取組であるということが、市とを明記してPRに努めることが、市民の理解を得る道につながる。</p>	政策課		<p>・定住自立圏に基づいた事業であることを明確に示すことを検討するとともに、広報紙、ホームページで積極的に周知していく。</p>																											
	<p>・土庄町は、豊島において瀬戸芸の観光客向けに日産の2人乗り小型電気自動車「ニューモビリティコンセプト」のレンタルを始めた。小豆島町は三都半島などで地元住民に三菱自の電気自動車「i-MiEV (アイミーブ)」</p>	政策課		<p>・定住自立圏の中心市、また連携市町との関係にある取組ではないが、連携市町である小豆島2町に事業提案を行うとともに、「環境負荷の少ない自動車普及促進」の取組の充実を図っていく。</p>																											

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>を無料で貸し出しして、自然環境に配慮しながら地元暮らしの利便性向上を図っている。10月からは、豊島と同様に「ニューモビリティコンセプト」の観光客への有料レンタルも始める。これからの案として、例えば土庄港(土庄町)で借りた電気自動車を坂手港(小豆島町)で返しても良い、など観光客の利便性向上を考えた連携ができないか。</p> <p>愛媛県上島町の島しょ部では、トヨタの1人乗り超小型電気自動車「コムス」を使って保健師が高齢者を訪問するなど、公共交通機関が少ない瀬戸内の島内交通に電気自動車が注目されている。長時間走行が難しい電気自動車はまだ四国に普及しておらず、土庄町と小豆島町は、島ならではの先進的な試みを始めたと言える。両町は、直島町をはじめとする他の連携市町にその成果を教えて経験を共有していただけるとありがたい。</p> <p>(参考:「瀬戸内の島 EV導入進む」『日本経済新聞』四国版2013年7月23日地方経済面)</p>			

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>○圏域内の経済力を高める為に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く人口を増やせる魅力ある雇用を作る(対女性, 対高齢者)</li> <li>・圏域外から買っているもので, 圏域内で代替できるものはないか見直す(圏域内地産地産, 学校給食等の献立検討)</li> </ul> <p>○公共交通を発達させる為に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少し不便でも公共交通機関を使ってもらう方法を検討する</li> </ul> <p>○圏域住民に圏域への自信や誇りを持つてもらう為に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化, 歴史, 芸術, 伝統を見直す(子ども達へ伝え教える)</li> </ul> <p>※教員に関する人事権の問題…市町単位では難しいが, 圏域単位なら可能かもしれない。ただ定住自立に繋がるのかは疑問。デメリットもある。</p>	<p>政策課</p> <p>保健体育課</p> <p>交通政策課</p> <p>文化財課</p> <p>学校教育課</p>		<p>現状と今後の見通し(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後, 国の動向を注視しながら, 魅力ある雇用(対女性, 対高齢者)に繋がる新規事業について, 検討していきたい。</li> <li>・学校給食では, 食育の推進にも関連して, できるだけ良質で新鮮な地元産食材の使用に努めている。主食の米は, すべて県内産を使用している。また, 生産者・流通業者等の関係者と連携し, 計画的・長期的に食材の確保を図ることや, 県内生産量の多い野菜を旬の時期に使用すること, 地場産物利用の新メニューの開発など, 地産地消推進に努めており, 使用率も(20%→80%(3年間))上昇した。しかし, 学校給食では, 良質な食材を大量に安定的に安価で確保する必要があり, 地場産物は天候に左右されやすいこと, 各食材の学校給食への適性など, かなり難しい課題がある。</li> <li>・現在, 本年9月定例会市議会での「高松市公共交通利用促進条例」の制定を目指しており, この条例の制定を契機として, ことடன்新駅の設置やバス路線の再編を始め, 交通弱者の移動手段を確保するコミュニティバスの充実など, 公共交通利用促進に向けた施策・事業の推進に努めることとしている。</li> <li>・【菊池寛記念館】◇対象事業&gt;土庄町 尾崎放哉記念館・資料館, 小豆島町 壺井栄文学館(二十四の瞳映画村内), 高松市 菊池寛記念館の連携, 活用&lt;現状&gt;これまで「瀬戸内かがわ 高松・小豆島の文学館めぐり」PR誌(パンフレット2万枚, ガイドブック1千冊)を作成し, 3館に設置するとともに, コミュニティセンター, 観光案内所, 圏域内の教育・文化施設, 全国の主要文学館等に配布し, 知名度向上を図り, 圏域の連携・交流が深まるよう努めた。また, 市民参加の菊池寛記念館文学探訪で小豆島を訪れ2館と連携し文化的交流を深めた。</li> </ul>

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
				<p>〈今後の見通し〉PR誌を継続的に3館に設置し来館者に配布するとともに、コミセン、観光案内所、圏域内の教育・文化施設、全国の文学館等に随時配布し、知名度向上を図り、文化的交流が深まるよう継続的に努め、特に瀬戸内国際芸術祭の期間中来客の多い小豆島にPR誌を重点的に設置し相互PRに努める。</p> <p>【学校教育課】各小中学校において「総合的な学習の時間」等での授業を通して、郷土の歴史・文化などの学習を行っており、その際に地域の人材・施設の活用をしている。今後もそれらの活動を継続するための予算を確保していきたい。</p> <p>※人事権の問題については、任命権と職務監督権が一致しておらず、学校運営での一貫性が保てない面があるが、人材確保や教職員の異動、研修等で様々な問題があり、今後、調査・研究していきたい。</p>
	<p>3年間の取り組みについて、広域定住自立圏で連携して取り組む必要があるもの、県全域として県が中心となっていて取り組む必要があるものと、県が中心となって取り組んだ方がより効果が見込まれるものが、少し混在しているように思います。(例えば、環境学習の推進、環境負荷の少ない自動車の普及促進、地域密着型トップスポーツの試合観戦機会などの提供など)</p>	<p>政策課</p>		<p>・今後の進行管理を行っていく上で、妥当性・有効性の観点から総合評価を行い、事業の見直しを行っていく。</p>

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>市民の認知度、認識度を高めるため 広報紙・ホームページ等で情報発信すること も大切であるが、「実際に行われている活動を知ってもらおう、見ても らう、参加体験してもらおう」ことが最も 効果的だと思います。 体や肌で感じ、理解してもらおうため の工夫、施策を積極的に考えてはいか がでしょうか。</p>	<p>政策課</p>		<p>現在、不法投棄対策事業の推進の中で、瀬戸内国際芸術祭の開催にあたり実施している「おもてなしクリーン作戦」を始めとした、参加体験を行う事業について、重点的に広報を行っていく。</p>
	<p>① d6(2)着地型観光プラン(ぶち旅プラン)の全16コースの具体的な紹介をしてください。 企画販売の各コミュニケーション活動や 広域からのお客様(瀬戸芸等)へ紹介できる仕組みが出来るとうい。</p>	<p>観光交流課</p>		<p>① コースの具体的な紹介については、別添のとおり。 (H24年度6コース+モデルコース6=12コース、 H25年度4コース+モデルコース5=9コース、全21コース) これらの周知等については、パンフレットを観光案内所等に配置するほか、高松観光コンベンション・ビューローのホームページに掲載するなどして、広く周知・募集している。 今後も引き続き、広域からのお客様へ紹介できる仕組みや機会などについて、検討する。</p>
	<p>② d6(4)どういう展開をしているのか、具体的な活動や成果について紹介してください。 ③ e9 海洋の漂着ゴミや海ゴミから、森(山)と海、生活と海が密接に繋がっていて、環境問題を考える</p>	<p>観光交流課 環境保全課</p>		<p>② 冬のまつりなどにおいては、イベントブースの一部に、観光PRコーナーを設け、連携市町の観光宣伝パンフレットなどを配置するなどして、相互交流による観光振興に努めている。 ③ (DVD 三井委員持参) 従来からの「出前講座」や今年度事業の「瀬戸内海に親しむ環境学習」などについて、受講対象者を圏域内として広報、募集している。</p>



予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>きっかけとなるよう、県が実施している活動等の広域圏ドキメント化等、広域圏での活用が出来ないか。</p> <p>④ f11 公共交通の利用促進の具体的事例を一つでも紹介してください。</p> <p>⑤ g13 地図等でエリア地区別の年次目標を示す必要を感じる。男木島の対応はどうなっているか。</p> <p>⑥ h14(1)直売所の整備活用への協力体制について(各事業所への情報提供や協働等、支援いただきたい)。</p> <p>⑦ h14(2)特産品の周知伝の積極的な取組について(県のさぬきマルシェ イン サポートには、三豊市の生産者グループが月1度販売PRに来て盛り上がっている)。</p>	<p>交通政策課</p> <p>情報政策課</p> <p>産業振興課</p> <p>農林水産課</p>		<p>④ 現在、本年9月定例市議会での「高松市公共交通利用促進条例」の制定を目指しており、この条例の制定を契機として、ことぞん新駅の設置やバス路線の再編を始め、交通弱者の移動手段を確保するコミュニティバスの充実など、公共交通利用促進に向けた施策・事業の推進に努めることとしている。</p> <p>⑤ エリア地区の整備状況は、地区内における島しょ部や山間部を除いて、H25年度中には、概ね整備される予定である。 男木島については、民間事業者が提供する超高速無線サービスのエリア状況等を見ながら、その整備のあり方について研究している。</p> <p>⑥ 現状としては、中心市街地の中央商店街等に地場産品の直売所を整備するため、中央商店街空き店舗活用事業を活用するほか、中央商店街コンシェルジュサービス提供事業や、グリーンザーズスクエアなどを活用して情報発信に努めている。今後も、引き続き、既存事業の効果的活用をはじめ、サン・クラツケや、まちのシェーレ963などとの連携を更に強化し、商店街全体の活性化に努めていく。</p> <p>⑦ さぬきマルシェについては、県産品振興課から各市町に対し、さぬきうまいもんプロジェクトとして参加を呼びかけている。 本市としては、従来どおり毎年2月末ごろ開催している食と農のフェスタへの参加を連携市町に積極的に呼びかけ、特産品の周知宣伝・販売の場を提供する。</p>

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>広域圏の皆様への呼びかけや、参加連携に積極的に取り組んでいた(だきたい。)</p> <p>⑧ j17 高松市美術館等の鑑賞学習は行われているか。広域への総合学習等への提案を盛り込んで欲しい。(イサムノグチ庭園美術館は子どもも無料だが、周知は出ているか。)</p>	<p>美術課 学校教育課</p>		<p>⑧ 【美術館】美術館では、鑑賞プログラム「アートで遊ぼう！」を特別展や常設展に合わせて年6回程度実施し、ゲームや遊びを取り入れながら、学芸員とともに美術作品を鑑賞している。</p> <p>平成24年度実績：さぬき市津田、志度より6回、8人</p> <p>また、美術館学習として展覧会の鑑賞や施設見学、アートゲームなどを行っている。</p> <p>平成24年度実績：志度東中学校(3回、52人)、三木中学校(15人)、津田高校(8人)、卓壁保育園(63人)、香川東部養護学校(27人)</p> <p>【学校教育課】総合的な学習の時間の活動内容については、各学校の判断のもと決定されており、地域の福祉施設等を活用した内容が多くなってきている。今後、校長・教頭研修会等において、美術館等での鑑賞学習や、イサムノグチ庭園美術館での無料措置について、さらに周知を図りたい。</p>
	<p>⑨ k22(1)豊島の産廃現地施設と直島の処理工場を環境教育の資源として広域圏で活用できないか。</p>	<p>環境保全課</p>		<p>⑩ 豊島の産廃施設や直島の処理工場を活用した環境学習の実績はないが、今後、関係機関と協議しながら、これらの施設を活用した環境学習を検討したい。</p>
	<p>【福祉】介護サービスの利用は、市町単位となっているが、移動入浴車高等額な割に利用率の低いものについては、広域運用を検討してもよいのではないか。</p>	<p>介護保険課</p>		<p>介護保険給付は、市町村の被保険者に対して行われるものであるが、サービス利用については、他の市町村に所在する施設、事業所が行う介護サービスを一律に利用できないというものはなく、本市の訪問入浴介護事業では、自ら定めるサービス提供の実施地域を県内全域としている事業所や、実施地域外の利用者へのサービス提供を行うことができ、現在、事業所(交通費の負担が必要な場合あり)も指定されている。また、現在、事業所によってはフル稼働に近い利用状況もあり、受給バランスは均衝しているものと考</p>

予定議題(1) 「瀬戸・高松広域定住自立圏における具体的取組の拡充について」についての意見

委員	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し(課題)
	<p>【人材育成】現在実施されている合同研修は、行政能力に関するものが大半であるが、「町おこし」に関する研修も必要ではないか。</p>	<p>政策課  地域政策課</p>		<p>えている。                      今後は、訪問入浴介護を始めとした介護サービスの住民ニーズの把握に努め、連携市町でも利用可能な介護保険サービスについての周知にも努めてまいりたい。</p> <p>【人材育成】【政策課】研修、講演会については、委員の意見や7月に実施したアンケート等を基に検討していくが、「町おこし」分野の人材による研修についても検討していきたい。</p> <p>【地域政策課】現在、協働推進員等人材養成研修など、地域リーダー育成等の研修を実施している。また、市民活動センターにおいて、まちづくりに関する情報収集・公開をしており、今後も事業を充実させていく見通しである。</p>
	<p>地域の住民が定住自立圏のサービスを受けていると認知することが少ない様に感じる。ロゴやPR手法等定住自立圏のサービスであるという事が簡単に判断出来るものが欲しい。                      地域の行政以外の人参加出来る項目に関しては、もう少し幅を広げた活動を行っても良いのではないだろうか。</p>	<p>政策課</p>		<p>ロゴについては、今後作成については考えていないが、PR手法として、定住自立圏に基づいた事業であることを明確に示すとともに、広報紙、ホームページで積極的に周知していくことで、行政以外の地域住民が参加出来る機会を増やしていく。</p>
	<p>現在まで取組んできた中で、連携や拡充に障害となる課題を出し、クリアしていけば拡充につながる部分もあるのではないか。</p>	<p>政策課</p>		<p>課題については、毎年度取組実績とともに中心市として把握しており、今後は進捗管理もあわせて行う上で、事業の拡充に繋げていく。</p>

予定議題(2) 自由意見

委員名	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し
	高松市以外の連携市町にどのような利得があるかを、それぞれの事業ごとに見直してはどうか。	政策課		現在事業毎に〈成果〉として表しているが、今後進行管理を行う上で、成果を基に評価をしていく。
	25年度の新規・拡充版では、不法投棄対策や使用済小型電子機器等リサイクルといった、環境対策事業の連携拡充が目立っている。このように、どの市町で行なっても内容がほぼ同じになるような事業の連携は、有効な効率化につながるために好ましい。他分野にも拡げられないか。	政策課		26年度の新規・拡充事業の調査を行う際に取り入れていく。
	連携している事業の内容について、認知度が低いのは、広報の問題なのか、必要性の問題なのか、見直す必要があるのではないか。 広く広報するよりも、それぞれの事業に関して必要とされるところへ集中して周知する方が効果的と考える。 また、定住自立圏そのものの認知度を高めるなら、名前や内容説明から入るより、目につきやすいマークやポスターを多発し、視覚に訴える方が効果的ではないか。	政策課		認知度について、今後広報紙、ホームページで積極的に周知していくとともに、進行管理を行い、必要性についても見直していく。 また、広報する際、事業を実施する際には、定住自立圏の取組事業であることを明確にしていく。 定住自立圏についてのマーク、ポスターの掲示については、広報の手段としては考えていないが、広報紙、ホームページでの積極的広報を行っていく。

予定議題(2) 自由意見

委員名	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し
	<p>2月の連携市町からの意見では、連携市町としてのメリットがあまり感じられていない印象を受けました。改めて、圏域の人口流出を防ぎ、定住を促すためにはそれぞれの地域で何が求められるのかを抽出し、それらについて重点的に取り組むことが必要ではないかと思えます。</p> <p>また、それぞれの地域からもビジョン懇談会の委員として参加してもらったかどうか。もっと活発な意見交換をすることによって、本音も聴ける、アイデアも生まれる、広域定住自立圏の認知もされるのではないだろうか。</p> <p>やはり、「瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会」はネーミングが長いので、簡単に言いやすい、親しみやすいネーミングにしては如何でしょうか。</p>	<p>政策課</p>		<p>今後の進行管理を行っていく上で、効率性・有効性の観点から総合評価を行い、事業の見直しを行っていく。</p> <p>懇談会の委員については、中心市として委員の皆様にご意見を限定していただいているが、委員の改選を行う際の参考とする。</p> <p>懇談会のネーミングについては、変更を行う予定はないが、今後親しみやすいホームページの作成を行っていく。</p>

予定議題(2) 自由意見

委員名	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し
	<p>6月議会でこれまでの取組や活動内容について再検証し、見直すことの提案があったことは重く受け止めるべきと思います。</p> <p>実施項目と内容が市民・住民の考えと乖離しているのではないでしょうか。</p> <p>住民の思っている重要度・緊急度をよく調べて、それに応じた優先度、努力度を考える必要があると思います。</p>	<p>政策課</p>		<p>今後の進捗管理を行っていく上で、効率的・有効性の観点から総合評価を行い、事業の見直しを行っていく。</p>
	<p>地産地消の学校給食等への取組は、広域で行えないか。(例：小豆島のオリーブ)</p>	<p>保健体育課</p>		<p>従来より、香川県産の地場産物の利用促進のため、県内で献立や物資確保の取組などの情報交換をしているほか、栄養教諭の県域の研修などでも情報交換を行っている。さらに情報交換を進めるほか、県内地場産物の情報についての集約など、香川県に要請したい。</p> <p>なお、オリーブについては、オリーブ油やオリーブパンなど、いろいろ使用方法を検討しているところであるが、県産オリーブは価格面の課題がある。</p>

予定議題(2) 自由意見

委員名	意見内容	関係課	担当	現状と今後の見通し
	<p>地域を活性化していくためには、圏域内の市町が持つ機能・資源を相互に活用し、圏域としての自立度を高めていくことが肝要であるとともに、域外からの企業誘致や観光客、さらには人口の流入を目指していく必要がある。この実現のためには、首長のリーダーシップと「町おこしバカ」の存在がポイントとなる。各市町で「町おこしバカ」の発掘あるいは育成ができないか。</p>	<p>政策課 地域政策課</p>		<p>【政策課】 「町おこし」リーダーの発掘や育成について、今後、「人材育成」の研修や講習を検討する中で、合わせて検討していきたい。</p> <p>【地域政策課】 現在、協働推進員等人材養成研修など、地域リーダー養成等の研修を実施している。また、市民活動センターにおいて、まちづくりに関する情報収集・公開をしており、今後事業を充実させていく見通しである。</p>





3 定住自立圏の将来像  
 (1) 都市機能の集積状況等  
 ア 都市機能の集積状況

資料 2

項目	都市機能	高松市 (例示)	備考
医療・福祉	地域がん診療連携拠点病院 (厚生労働省指)	香川県立中央病院 高松赤十字病院	
	救急病院等 (県指定)	[第2次・第3次] 香川県立中央病院	
		[第2次] 高松市民病院, 高松赤十字病院, 香川県済生会病院, 屋島総合病院, 栗林病院, 国家公務員共済高松病院, 高松平和病院	
		香川県小児救急電話相談	
	その他 (市立病院)	市民病院塩江分院 市民病院附属香川診療所	
	児童相談所	香川県子ども女性相談センター	
老人福祉施設等	特別養護老人ホーム26 介護老人保健施設19 認知症対応型共同生活介護43	施設サービス 地域密着型サービス	
障害者福祉施設等	障害者支援施設7 指定障害福祉サービス事業所41	※	
教育	大学	国立大学法人 香川大学, 高松大学, 香川県立保健医療大学, 高松短期大学	
	高等専門学校	香川高等専門学校	
	中高一貫校	香川県立高松北中学校・高等学校, 大手前高松中学校・高等学校, 香川誠陵中学校・高等学校	全日制普通科
	各種専門学校	32校	学校教育法による認可校
消費	百貨店	2店	大規模小売店舗5,000㎡以上 (大規模小売店舗立地法に基づく届出による)
	大型書店	1店	大規模小売店舗5,000㎡以上 (大規模小売店舗立地法に基づく届出による)
	大型家電量販店	2店	大規模小売店舗5,000㎡以上 (大規模小売店舗立地法に基づく届出による)
	大型ショッピングセンター	17店	大規模小売店舗5,000㎡以上 (大規模小売店舗立地法に基づく届出による)
	消費者生活センター	高松市消費者センター 香川県消費者センター	

項目	都市機能	高松市 (例示)	備考
情報・娯楽 ・文化	放送	日本テレビ系列, テレビ朝日系列, フジテレビ系列, TBS系列, テレビ東京系列	民放, 主要5局視聴可
	シネマコンプレックス	1施設	
	美術館・博物館	高松市美術館, 高松市塩江美術館, 香川県立ミュージアム, イサム・ノグチ庭園美術館	※
	資料館等	高松市歴史資料館, 高松市石の民俗資料館, 高松市讃岐国分寺跡資料館, 高松市香南歴史民俗郷土館, 菊池寛記念館, 瀬戸内海歴史民俗資料館	※
	大型文化芸術ホール	サンポートホール高松 (高松市文化芸術ホール) アルファあなぶきホール (香川県県民ホール)	
	大規模図書館	高松市図書館4 香川県立図書館	
	スポーツ施設	体育館・武道館等 (高松市総合体育館等) 12, プール (福岡町プール等) 8, その他グラウンド等31施設	
	レクリエーション施設	高松市中央公園, 峰山公園, 仏生山公園	※
	交通	高速道路	高松自動車道 (高松東IC, 高松中央IC, 高松檀紙IC, 高松西IC)
ターミナル駅		JR高松駅, 琴電瓦町駅	※
長距離バス		高松⇄東京, 横浜, 名古屋, 京都, 大阪, 神戸, 広島, 福岡, 松山, 高知, 徳島	※
空港アクセスバス		高松⇄高松空港, 関西国際空港	※
航路	航路 (高松港～小豆島)	【高松港～土庄港】フェリー15便, 高速艇16便【高松港～池田港】フェリー8便【高松港～草壁港】フェリー5便, 高速艇5便	※
	航路 (高松港～豊島)	【高松港～家浦港】高速艇5便	※
	航路 (高松港～直島)	【高松港～宮浦港 (直島)】フェリー5便, 高速艇1便	※

項目	都市機能	高松市（例示）	備考
レンタサイクル	高松市立レンタサイクルポート	市内中心部に7箇所のレンタサイクルポートを設置 （高松駅前広場地下，瓦町地下，栗林駅前，南部駐車場，栗林公園駅前，市役所，片原町駅前） 受付時間：7時～22時 （南部駐車場のみ7時30分から） 年中無休	

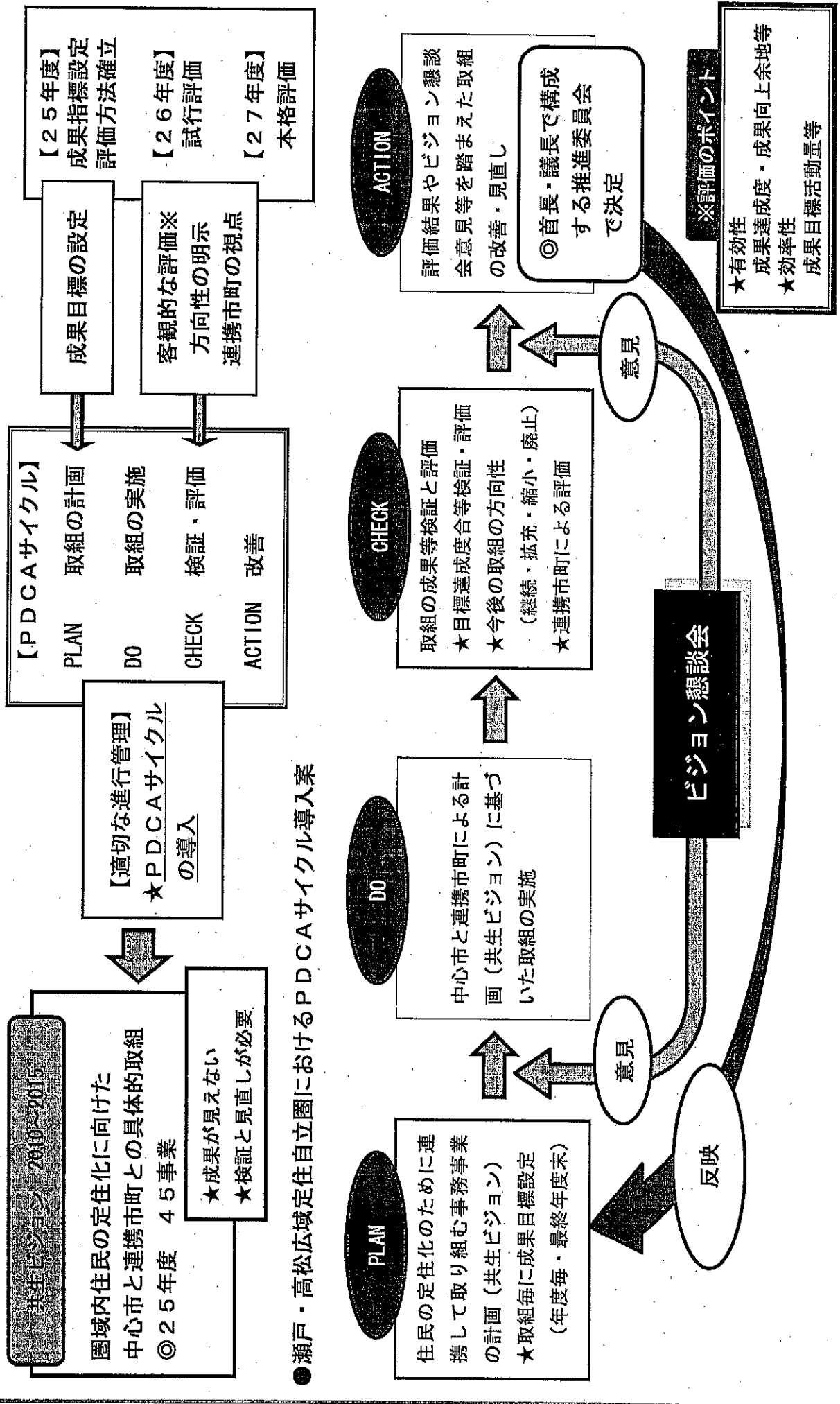
※ 新規項目  
一定の基準を設置する

イ 地域資源

項目	地域資源	高松市 (例示)	備考
消費	特産品	讃岐うどん, 漆器, 盆栽, 庵治石製品, 保多織り (ぼたおり), 讃岐提灯, 高松和服, 和傘, 鯛持戎や奉公さんなどの張り子人形, 獅子頭	
	産直施設	産直市10	※
情報・娯楽・文化	イベント	① さぬき高松まつり (8月) ② むれ源平石あかりロード (8月~9月) ③ 高松秋のまつり (10月) ④ 高松冬のまつり (12月)	
	自然景勝地	屋島, 玉藻公園, 栗林公園	
	文化財	有形文化財168, 無形文化財11, 民俗文化財23, 記念物48	
	歴史	源平合戦 (屋島合戦)	
その他	その他		

新規項目  
※ 一定の基準を設置する

# 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンにおける取組の進行管理について



共生ビジョン 2010～2015

圏域内住民の定住化に向けた中心市と連携市町との具体的取組

◎25年度 45事業

★成果が見えない  
★検証と見直しが必要

●瀬戸・高松広域定住自立圏におけるPDCAサイクル導入案

